



【協働体通信 HP】

第27号

# えひめ 地域づくり協働体通信

令和3年（2021年）10月発行

今号では、伊方町二名津地区で「NPO 法人二名津わが家亭」理事長を務められている、(有)増田建材代表取締役 増田克仁<sup>ふたなづ ますだかつひと</sup>さん取材しました。二名津わが家亭は、古民家を活用した施設貸出や民泊の営業を行うほか、地域活性化に向けた多くのイベントを開催しています。代表的なものとして、8月のわが家ライブや12月のイルミネーション点灯式があります。

増田理事長は25歳の時、実家の家業を継ぐため、二名津に帰られた際、賑やかだった子供たちの声が聞こえなくなっていました。故郷を元気にしたい、かつての賑わいを取り戻したい思いが募り、何か行動をしなくてはと決意されました。

本紙が皆さまの地域で活動される上で、ご参考になれば幸いです。

伊方町二名津地区

キーワード：二名津わが家亭設立の経緯、二名津わが家亭に関するイベント  
シャッター・アート、今後の取組み・課題

## ★伊方町二名津地区について

伊方町二名津地区は、佐田岬半島の先端より少し手前、瀬戸内海に面した地区です。約160世帯、300人が暮らしています。

施設で有名なのが「ムーンビーチ井野浦」です。延長307mの人工砂浜で、湾曲した突堤と潮の満ち引きによる形状が、美しい三日月形をしており、一度見ると忘れられないでしょう。

二名津地区における、主な年間行事は、2月11日の春祭り（お伊勢踊り）、5月のこいのぼり祭り、盆踊り、10月の秋祭りなどがあります。



伊方町二名津地区

## ①「二名津わが家亭」設立の経緯について

地域に元気を取り戻すために、何かをしなくてはという思いが募る中、平成28年に4月に古民家「旧村井邸」の無償譲渡の申し出がありました。上手く運用していけるか不安の中、古民家を活用し、地域を活性化させようと決意しました。地域の人たちに「第二のわが家」のように利用していただきたいとの思いから、「二名津わが家亭」と名付けられています。

平成30年にNPO法人として設立、今年で4年目を迎えます。令和3年3月時点で、正会員28名、賛助会員63名、計91名が入会されています。

二名津わが家亭は時間帯での貸出利用や宿泊も可能となっています。皆さん是非、二名津わが家亭を利用（宿泊）されてはいかがでしょうか。コロナ禍のため、愛媛県内在住者の方のみに限っております。（ホームページにも掲載されています。）



二名津わが家亭

## ②二名津わが家亭に関するイベントについて

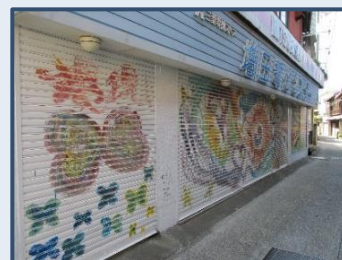
二名津わが家亭では、様々な地域活性化を目的とし、多くのイベントを実施しています。中でも、特に理事長さんの印象に残っているものは、平成30年に初めて開催した「雛の酒蔵」というイベントです。地域の方が集い、楽しそうに会話を交わされる姿が印象的とのことでした。地域の方々の交流が深まったことを実感できたので、今後続けていきたいとおっしゃられていました。

また、平成22年から毎年「イルミネーション点灯式」を開催しています。令和3年は、12月10日（金）から1月10日（月）までの間、旧二名津中学校、校舎内（玄関）と校舎付近の道路沿いの桜の木に点灯する予定です。過去には、こいのぼりや青森のねぶた祭りを題材とした、意表を突いた作品も点灯されました。イルミネーション制作に関わる人と地域の方との交流により、地域活性化に寄与するとともに、地域内外の多くの方が楽しみに見に来られます。

## ③シャッター・アートについて

地域の方々から、小・中学校が閉校になり、子どもたちの楽しく遊ぶ姿が見られず、寂しいとの声が多く聞かれました。それを聞いた理事長さんが、自社である（有）増田建材のシャッターに何か絵を描いて少しでも地域が元気になるかと思ひ、三崎高校にお願いしたところ、有志5名の生徒さんが手を上げてくれました。三崎の海に現れるイルカと地域への思いを形にした絵の制作を通じて、高校生の地域への愛着が芽生えるのも地域活性化です。

また、理事長さんが上記作品を会員制交流サイト（SNS）に投稿したところ、画家である今井裕見さんが興味を示し、地域を元気づけたいと制作されました。作品は、三崎高校生の作品の隣に描かれ、両作品のシャッター・アートの長さは、全長約20mにもなります。



## ④今後の取組み、課題について

今後の取組みとして、二名津わが家亭の隣に別邸があり、有効活用できないか考え、「裂織り（使い古した着物や布を5mm～1cmのリボン状に裂き、織り直す技法）体験の場所」の利用が決定しました。

織るだけではなく、ご自分の着物や布を使った裂織りを多くの方に来ていただき、体験してほしいと語られていました。

課題として、理事長さんの後を引き継ぐ、後継者問題を挙げられました。しかし、自分からお願いするのではなく、志のある方に自ら名乗り出てもらい、後継者が決まってほしいと語られていました。



## ★取材後記

お聞きする中で、コロナ禍での、二名津わが家亭の運営上、ご苦労されていることを感じました。そして、地域活性化には、まず二名津に「ワクワクする雰囲気」を作ることが大切と理事長さんが語られていたのが印象に残りました。

ワクワクする二名津へ、二名津わが家亭へ是非お越しください！！

イルミネーションについて、今後ますます二名津にイルミネーションの輪が広がるといいですね。イルミネーションが地域だけでなく、地元住民や見に来た人たちの心にも明かりを灯してくれることでしょう。



この情報誌の関係サイト/「えひめ地域づくり協働体」 Facebook

地域の活動情報の連絡先/この情報紙に関するお問合せ先

愛媛県企画振興部地域政策課

TEL: 089-912-2235 E-mail: [chiikiseisak@pref.ehime.lg.jp](mailto:chiikiseisak@pref.ehime.lg.jp)

(公財) えひめ地域政策研究センター

TEL: 089-926-2200 E-mail: [info@ecpr.or.jp](mailto:info@ecpr.or.jp)